

オルビス、「甲州市・オルビスの森」で間伐・除伐作業 間伐材を使った“木育つみき”を抽選で100名様へプレゼント

ポーラ・オルビスグループのオルビス株式会社(本社:東京都品川区、社長:阿部嘉文)は、山梨県甲州市に広がる荒廃した森林を里山として再生する「甲州市・オルビスの森」プロジェクトの一環として、11月25日(土)に従業員ボランティア及び関係者約70名で約300㎡のエリアの間伐・除伐作業を行いました。

今回は、2017年春に植えたサクラの木々を見て楽しむ景観を整えることを目的として、約300㎡の除伐作業を行いました。オルビスでは、2014年から里山の再生に向けた活動を続けています。人が活用し、人の影響を受けた生態系が存在する場所として、見て楽しめる景観を作ることも、里山の活用にとって重要な作業の一つであると考えています。

オルビスは2002年から継続して社員ボランティアが植林や下草刈り、間伐作業を実施してきましたが、2017年より、里山の活用に向けた整備作業にも着手しました。



間伐・除伐作業を行うオルビス社員

オルビスは1987年の創業以来、通信販売という業態から生じる紙の消費を主とする事業活動における地球環境への負荷を常に意識し、環境に配慮した商品開発、サービスを心がけてきました。2002年からは公益財団法人オイスカとの協働により国内外での環境保全活動を支援、国内では山梨県における社員参加型の環境ボランティアイベントを毎年春と夏の年2回、開催しています。またこれらの継続的な取り組みに対して、2006年、2014年の2度にわたり山梨県知事より感謝状が授与されています。

「甲州市・オルビスの森」について

甲州市塩山上小田原の広さ約100ha(東京ドーム約21個分の広さ※)の市有林。公益財団法人オイスカの仲介により、オルビスと甲州市が同地の整備、保全に向けた協定を2011年1月31日に締結しました。オルビスは2012年度から植林や下草刈り、2014年より間伐などの整備を行い、人と森をつなぐ里山として再生させるプロジェクトを推進。2021年までに里山を再生し、2022年以降は人と自然との共生を目指し、地域と連携しながら、「甲州市・オルビスの森」や、そこで採れた間伐材の有効活用に取り組みます。

※東京ドームの敷地面積を46,755㎡として換算

【間伐材を使った“木育つみき”を抽選で100名様へプレゼント】

創業30周年と同時に環境保全活動15年目を迎えたオルビスは、節目となるこの機会に、山梨県甲州市産の間伐材を使った“木育つみき”を、オルビスの商品を購入した方に、抽選で100名様へプレゼントしました。

同梱するメッセージカードは、社員が手作業で仕上げで完成。梱包も、一つ一つ社員自らの手で行い、お客さまへより一層オルビスを身近に感じていただけるよう取り組みました。



オルビスでは環境への取り組みを専用サイトでご紹介しています。
是非こちらもご覧ください。

<http://corp.orbis.co.jp/csreco/>

【本件に関するお問い合わせ先】 (株) ポーラ・オルビスホールディングス コーポレートコミュニケーション室
Tel 03-3563-5540 / Mail webmaster@po-holdings.co.jp